２　計画の課題

（１）基本計画の理念

日本平公園の整備は、静岡市の第５次総合計画において「観光・スポーツ・文化」分野の目指すべき未来像を実現するための施策として位置付けられています。

この総合計画に掲げる「食、スポーツ、芸術、歴史など多様な文化で人々の心が豊かになるまち」及び「来訪者の増加を通じて地域経済が潤っているまち」を、基本計画の理念とし、この理念の実現に向けて、『名勝』『観光』『公園マネジメント』の３つの視点から日本平公園の現状と課題を整理し、課題の解決策となる取組を実施します。

【基本計画の理念 ＝ 静岡市第５次総合計画 目指すべき未来像】

食、スポーツ、芸術、歴史など多様な文化で人々の心が豊かになるまち

来訪者の増加を通じて地域経済が潤っているまち

（2）現状・課題の整理

1）名　勝

＜現状・課題＞

日本平の本質的な価値は、優れた 360 度の眺望と、それを取り巻く自然環境、歴史、伝承、人々の顕彰・活動等が重なり合って形成される景観＝「風景」にあります。この価値を保存するためには、主体となる眺望とともに、周辺環境も一体的に保存する必要があります。しかし、眺望を取り巻く周辺の茶畑や樹林地などの管理は、耕作者や所有者に依存しており、担い手の高齢化や後継者不足などによって、周辺環境の維持が困難となっています。

一方で、文化財の持続的な保存に向けた方向性として、観光や地域振興に活用していく視点が求められており、2026（令和 8）年 3 月には「名勝日本平保存活用計画」が策定されました。今後の公園整備では、日本平の価値をさらに活用しながら将来に渡って持続的に保存していくための取組が必要となっています。

＜今後の取組の方向性＞

日本平の本質的な価値である「風景」を活かした体験や公園内での活動等を通して、来訪者に名勝の本質的な価値を理解してもらうことにより、日本平公園の活用や周辺緑地の維持管理への協力等、名勝の保存に関わる担い手を増やす必要があります。

2）観　光

＜現状・課題＞

日本平公園の来訪者は、約 8 割は観光目的で、日本平夢テラス等の展望施設や久能山東照宮と併せた通過型の短時間の利用が中心となっています。

本市の観光振興においては、市内の滞在時間の短さや観光消費額の低さが課題であり、日本平公園でも、園内滞在時間の延長や周辺観光地と連携した周遊利用を促進し、市内の観光振興に貢献することが求められます。しかし、現在の既存施設の魅力は「眺望観賞」であり、眺望を楽しみながらの休憩や、眺望と関連した地域文化の体験など、滞在しながら利用する施設やサービスが提供できていません。また、日本平公園は、立地特性からアクセス手段が自動車に依存しており、周辺観光地への周遊にもアクセス面で制約があります。ゴールデンウイークや年末年始等の繁忙期には駐車場が不足し、駐車場待ちの車により渋滞が生じるなど、周遊を支えるアクセス環境の改善が必要となっています。

来訪者の動向としては、清水港の外国クルーズ船の寄港回数が増加している一方で、日本平山頂周辺の年間利用者数はピーク時の 2019（令和元）年の 200 万人から、2025（令和 7 ）年は 140 万人に減少しており、クルーズ船利用者等の外国人旅行者による観光需要の増加を、日本平の利用者数の増加につなげられていません。

＜今後の取組の方向性＞

日本平公園を広域的な観光拠点と捉え、周辺の観光施設間との周遊利用や多様な交通手段に対応した駐車場等の交通結節点の改善に取り組む必要があります。また、公園内で地域の食や歴史、文化体験の場を提供するとともに、イベント等の活動の場としての機能を拡充し、来訪者が滞在しながら利用できる空間づくりに取り組む必要があります。

3）公園マネジメント

＜現状・課題＞

来訪者へのアンケートでは、「雨の日も眺望を楽しめる施設」や「子どもと遊べる施設の充実」、「イベント開催や観光情報の発信」を求める回答が多く挙げられています。一方で、公園整備の開始から 15 年以上が経過しており、今後は、来訪者の需要に応えるための新たな施設整備とともに、老朽化していく施設の更新や修繕にも対応していく必要があります。しかし、現在の計画は、眺望観賞のための施設整備が主体となっており、整備後の施設管理や利用の促進などの管理運営の視点が不足しています。今後は、限られた財源や人員の中で、来訪者の憩いや体験、活動の需要に応じた施設の充実やサービスの提供を継続していく必要があります。

＜今後の取組の方向性＞

施設使用料などを施設管理やイベント・情報発信等のサービスに還元する仕組みを検討する必要があります。また、施設整備と管理運営の両面において、民間事業者の有するサービスのノウハウやアイデアを活用する「公民連携」の事業手法を導入し、持続可能な公園マネジメント体制の構築に取り組む必要があります。

（３）課題解決に向けた取組みの方向性

日本平の本質的な価値は、優れた四周の眺望とそれを取り巻く周辺の自然や歴史、人々の営みが重なり合って形成されている景観＝「風景」であり、この貴重な名勝の価値＝「風景」を、来訪者の憩いや体験、地域の観光振興のために最大限に活用しながら、将来に渡って適切に保存していく必要があります。

現在の日本平公園は、眺望観賞を目的とした短時間の利用が主体となっており、名勝の本質的な価値を十分に活用できているとは言えません。

今後は、さらに多くの人に名勝の価値を体感してもらえる場所となるよう、滞在しながら利用できる施設や空間の整備とともに、来訪のきっかけとなるイベントや周辺観光施設の情報発信等の利用の促進に取り組む必要があります。また、こうした取組を継続していくためには、市民や地域団体、観光関係者、民間事業者などの多様な主体と連携しながら、公園づくりに取り組む必要があります。